

じんけん 丹波

自分も大切にできる人
他人も大切にできる人
こんな東がこる人
心豊かな人



丹(まごころ)の里
丹波市
人権尊重のまちづくり

発刊にあたって

昨年、三月十一日に発生した東日本大震災は、広範囲にわたって大きな被害をもたらし、私たちの生活や経済に大きな影響を与えました。また、原発事故の発生に伴い、多くの方がふるさとを離れての生活を余儀なくされ、偏見や思い込みによる風評被害や人権侵害も発生し、大きな社会問題となりました。

誰もが安心して暮らし、自分らしく生きることが出来るまちづくりを進めるためには、一人ひとりの人権が尊重されることが何より大切です。

丹波市では、「人権施策基本方針」に基づき、個人が尊重され、安全に安心して暮らせる快適なまちづくりを推進しています。

この人権啓発・学習冊子「じんけん丹波」(No.7)は、人権意識の高揚並びに人権感覚・実践力の形成を図るために発刊いたしました。

各家庭や職場、地域で是非、ご活用下さい。

平成二十四年三月

丹波市長 辻 重五郎

もくじ

日本人の差別観・・・・・・・・・・・・・・・・	2
高齢社会と地域づくり・・・・・・・・・・・・・・・・	4
不登校から子どもの人権を考える・・・・・・・・	6
ケイタイ・インターネット社会と人権・・・・・・・・	8
暮らしの中で取り戻す男女共同参画社会・・・・・・・・	10
人と人との絆の意味を問い直していくこと・・・・・・・・	12
民族文化が尊重される社会をめざして・・・・・・・・	14
住民人権学習会に参加しましょう！【学習教材】・・	16
中学生人権作文「愛子さんふたたび」・・・・・・・・	22
人権啓発ポスター 優秀・優良作品・・・・・・・・	24
人権標語 優秀・優良作品・・・・・・・・・・・・・・・・	25



「日本人の差別観」

猿まわし芸人

村崎 太郎



私は四年前まで、被差別部落出身者であることを隠し通して生きてきた。愉快的猿まわし芸人「太郎次郎」として有名になればなるほど、被差別部落出身者であることを知られるのが怖くてたまらなかった。その事実がばれたら、人気も仕事も仲間も全て失ってしまうだろう…。家族や身内を不幸に巻き込んでしまうだろう…と怯えていた。一方で、そのように卑屈に生きている自分を情けなく感じた。いや、腹立たしく思った。以来、およそ三十年近く、自分の矛盾と葛藤し続け、四十七歳の時、遂に前者の自分に別れを告げた。怯えて卑屈に生きる自分を捨てることにした。顔と名前の知られた芸能者としては、初めて部落民であることを公にしたのだ。

勇気を振り絞ったカミングアウトの結果は、覚悟を遙かに上回る悲惨なものだった。「敬遠」や「無視」といった冷たい反応だけに留まらず、「奴は、差別問題を材料に商売しようと企んでいる」と誹謗中傷する人間まで現れた。そんな図太さがあるならば、三十年間も悩んで、うつ病を患ったり自殺を考えたらずがないのに。

確かに、居住地域の環境状況や就学就職問題は、かなり改善された。しかし、それらは表面の進歩にすぎない。日本人の心が進歩したとは、どんなに鼻真目に見ても言えない。日本人の差別観は底辺で停滞したままである。部落差別に起因する結婚差別は、まだまだ続いている。恋人の親から拒絶されて自殺をはかる若者や、娘の結婚が破談になったことに責任を感じて、命を絶つ親が現存しているのだ。しかし、その事実が明るみに出ることには殆どない。遺族らが、好奇の目に曝されることを忌避するから、自殺の原因である差別を追及しないのだ。傷を負っ

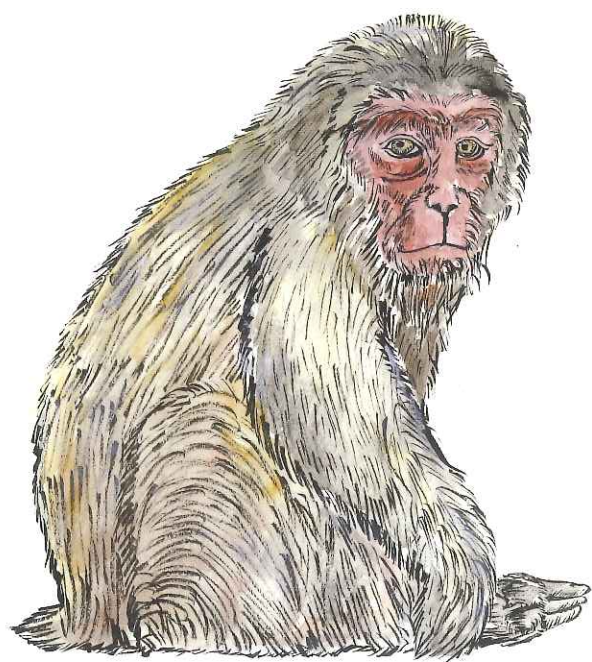
た弱者が、それ以上傷つくことを恐れてしまう。弱者が怯えて生きていかなければならない。そういった現状を周囲は平気で放置する。見て見ぬふりをする。だから弱者の声は聞こえてこずに埋もれてしまう。

このたび起きた福島原発事故に関しても、私は憤りを抱く。国民は、「危険はありませんよ」という暗示にかけられていたのだ。これは、「部落差別なんて過去の話ですよ」と誤魔化されていることと類似する。騙す側だけではなく、騙される側の事なかれ主義が、福島県民の大悲劇を生んだのだ。

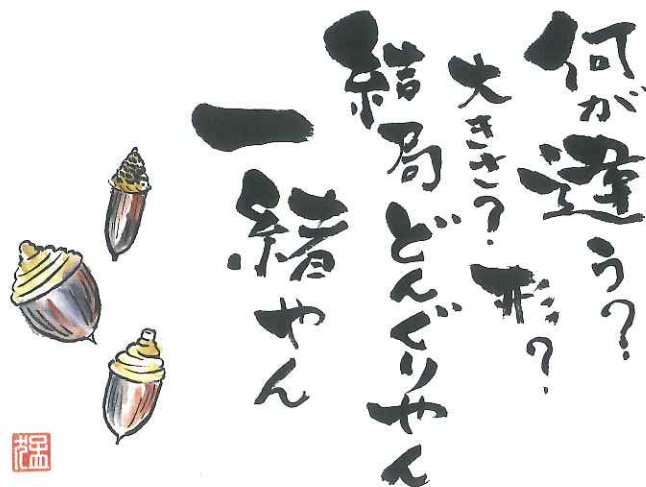
私は、そんな日本人がひとりでも減ってくれることを願って、相方の次郎と共に旅をしている。いろんな傷を負った人たちと触れ合う旅だ。

私は、彼らに対しても訴えかける。例えばハンセン病療養所を訪ね、彼らにお願いをする。「どうか、あなたたちが受けた苦しみを葬り去らないで、世間に伝えて下さい。傷口を曝け出すことはとても辛いけれど、今後同じような苦しみを味わう人を生まないために、あなたたちが語って下さい。それは、あなたたちの義務でもあります」と。

差別する人間たちだけを責めてはいけない。我々差別される側の人間たちも、勇気を持たなければならぬ。そして、日本人の大半を占める差別されてもいない差別してもない、ただ他人事として客観視している人間たち……、彼らにこそ、目を開き耳を傾けてもらいたい。部落問題に限らない。日本国内とも限らない。世界中に、人として心向けなければならぬ問題は数多くあるのだ。



(注釈)
*カミングアウト…公表すること。人に知られたくないことを告白すること



高齢社会と地域づくり

兵庫県いなみ野学園 学園長

馬場英司



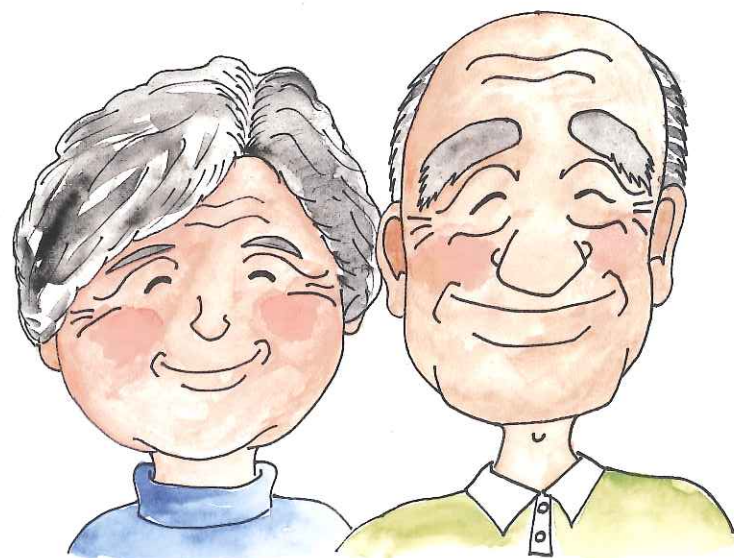
昨年三月に未曾有の東日本大震災に襲われてから早一年。

被災した人たちの避難状況や避難生活を思い起こすと、互いに助け合い、支えあう地域コミュニティの力や大切さが、今でも心に刻みつけられています。

丹波地域は高齢化率が二十八%を超えています。高齢化が進むほど、住民が連携しながら一つになって、活気のある地域にすることがより重要になります。

地域づくりはそこに住む人々がつながり、活力のある安心して暮らせるようなまちづくりです。もとより、若い人を中心に多くの人が地域を支えています。中でも、これまでから高齢者が大きな役割を担ってきました。

ところが近年、地域で活動する人が少なくなっているという話をよく耳にします。高齢者が増えているのにもかかわらずです。趣味の多様化やできるだけ長く働きたいといったいろいろな理由が考えられます。また、したくてもできない事情のある人もいます。



都会の人からみると、田舎に住んでいる人はゆったりと生活しているように思われがちです。しかし、田舎の高齢者は、田畑を耕して農作物を作ったり、家事の手伝いや孫の世話などいろいろな仕事があります。言わば、日常生活の中で居なくてはならない存在になっており、地域でも頼られている人が多いのではないかと思います。

いなみ野学園に学ぶ高齢者の学生の平均年齢は約六十六歳ですが、実際より五歳ぐらい若く見えると言われます。日頃から自分の知識や教養を深め、あるいは趣味を生かしてボランティア活動をするなど、目的や目標をもっていきいきと生活しているからです。

高齢者に大切なのは、まわりの人に必要な人材として認められることです。そのために、健康で元気というだけではなく、目的をもって社会に参画し、その接点を持ち続けるようにしてください。人は幾つになっても誰かの役に立ちたい、感謝されるようなことをしたいと思っているのではないのでしょうか。皆さんがこれまで学んできた趣味や技能などを生かして実践することが活力のある地域づくりにつながります。また、歳を重ねると、体力的に若い人に到底かないませんが、高齢者にはそれを補って余りある豊富な経験や知識があります。それらを生かせば、地域のさまざまな課題解決に向け、戦力として貢献できます。そして、地域の人に期待され、役に立っているという自覚を持つてください。生きがいとして実感できるようになればさらにすばらしいと思います。生きがいを感ずることは、生活の充実につながり、喜びでもあります。高齢者の皆さんが、いきいきと地域づくりを先導する気概をもって活躍されるよう願っています。

おじいちゃんのお話
何が不思議と
落ち着く一冊
おばあちゃんのお話
困った時に何か頼てる
そのしわの教
安心の教



不登校から子どもの人権を考える

早稲田大学・国連NGO

「子どもの権利条約総合研究所」代表

喜多明人



今年、学校法人東京シユール学園葛飾中学校が設立五周年を迎える。たまたま縁があつてこの学校の理事を引き受けてきた。私の仕事の一つは、毎年欠かさず卒業式で来賓挨拶をこなすことだ。

卒業式に参加していつも感じていたことだが、ほぼ全員が卒業して高校に進学する。この学校の入学の条件は「不登校」であつたはずだ。ところが不思議なことに、入学した生徒の七〇八割が毎日通学する。残りの二〇三割は、ホームエデュケーションで、二名のスクールソーシャルワーカーが家庭と学校をつないできた。こうした生徒達と接してきて、日本の学校とは、いったいなんだつたのだろう、と強く感じてきたのである。

不登校は、文字通り、学校に行かないという行為を指している。言うまでもなくその行為は結果であつて、原因や理由ではない。子どもにとっては、行かないという行為をとった言い分、理由があつたはずである。おそらく、多くの子どもは、行かない理由を解決すれば、普通に学校に通えたはずである。

しかし、現実には、そうならないことが多い。たとえば、学校でいじめがあり、その辛さから逃れるための自己防衛として学校に行けないことがある。あるいは、担任の教師による体罰がひどくて、身の危険を感じた子どもが学校に行けない状況に追い込まれることもある。

先日、ある地域で訴えがあつたケースは、発達障がいが無理解な教師が、多動性のある子どもをむやみに叱りつけて、その恐怖心から不登校になつた子どもがいた。

いずれも、子どものせいではない。学校や教師、子ども同士の関係に原因があつたのであるが、現実には、子どもの言い分を聞かないで、おとな側が望んでいる学校復帰という結果だけを優先してしまう傾向がある。その場合に、不登校は子どもの怠け^{なま}とか、病理現象という扱いをうける。実際、いじめ死という人権侵害には、社会背景として不登校を認めない土壌がかかわっており、逃げ場を失つた子どもが過酷ないじめから自殺に追い込まれるというケースが跡を絶たない。

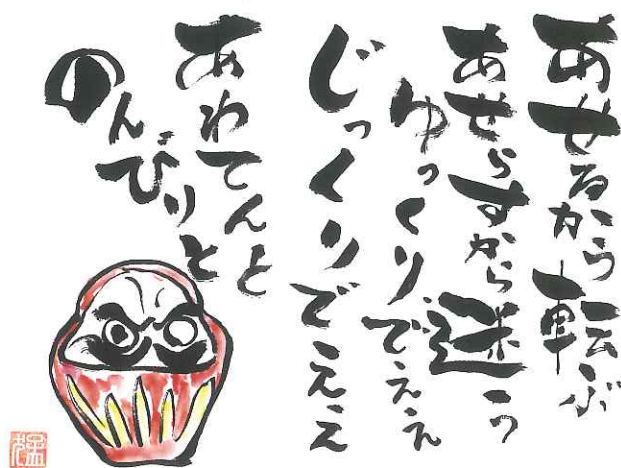
不登校が社会問題化するということは、一面では、子どもの言い分、気持ち、子どもの意見表明権（子どもの権利条約十二条）がきちんと守られていないことの証でもある。子どもに向けられたいじめ、体罰などの人権侵害行為については、かならずなんらかのSOSが発せられていたはずである。なぜ学校に行かないのか、その行為から、「言葉によるかそうでないかを問わず」、子どもの気持ちや思いを受け止めていくことはおとなの責任であり（ユニセフ『世界子供白書』2003）、子どもの気持ちを正面から受け止めるおとな側の新しい力が求められている。

国連子どもの権利条約が採択されて二十二年。一九九四年四月に日本政府が批准して十八年。そろそろ子どもの人権の視点にたつた子ども問題の解決が図られてほしいと願っている。

（注釈）

*ホームエデュケーション…学校に通学せず、家庭に拠点を置いて学習を行うこと

*スクールソーシャルワーカー…親と学校の間に立つて、相談を受けたり、活動を行う人



ケイタイ・インターネット社会と人権

兵庫県インターネット安全利用推進協議会会長 三好 成明



はじめに

昨年三月十一日、千年に一度ともいわれる東日本大震災。地域全体を破壊してしまった大津波。さらには福島原発事故。この大震災で日本人の社会性と辛抱強さは世界から賞賛されました。相手を思いやる優しさと絆、これこそが日本人の原点だと確信しています。欧米文化を基盤としているいちぶの学識経験者の社会観とは異なる感覚かも知れません。

バブルがはじけ、二十年も続く不景気。そして、労働者派遣法が改正され、その結果、経済的格差社会が生まれてしまいました。また、デジタルコミュニケーション社会という非人間的社会が従来と異なる人権問題を生み出しています。

インターネットがひきおこす現実の問題

インターネットは多くの人に一瞬にして情報を伝えるすぐれた機能があります。それを悪用した「個人攻撃」は、いじめやひきこもりという大きな社会問題の原因になっています。某新聞で「悩める母親、子育て楽しいと言えない」という記事が掲載されていました。「私は子どもが苦手です」という若い女性が増えていると書かれています。これは大変な驚きです。母親が子どもを殺傷するという事件も起こっています。また、児童ポルノをネットに掲載し、お金を稼ごうという大人もいます。

インターネットの世界では目に見えない犯罪者が「ワナ」を仕掛けています。中学生、



高校生が見知らぬ相手とメールやオンラインゲームで仲良しになり、性犯罪や暴力犯罪の被害者になったという事件も起こっています。夢を失った、真面目な青少年の唯一の居場所がインターネット世界となり、実社会から逃避、そしてある時、その唯一の居場所から大量の個人攻撃を受け、やみくもに社会に対して復讐するという事件も起こっています。

インターネットの使いすぎは青少年から会話能力や表現能力を奪い、家族観、人間性、社会性を取りあげ、無縁・無気力な人間を育ててしまう恐れがあります。それは家族を崩壊させ少子化を引き起すという、新しい人権問題をもたらしています。

インターネット社会を生きぬくために

*フィルタリングをかければ安全という無責任な専門家がいます。フィルタリングで防止出来る問題は直接的にごくごく少ないという事を知らなければなりません。

また、フィルタリングをかける事と、子どもたちの人権を守り、人間性、社会性を育てていくという事とは全く異なる事です。

成長期にある青少年にとってインターネットはほとんどマイナスだと認識して下さい。インターネットで富士山を検索すると、素晴らしいデジタルデータを見ることが出来ます。しかし、富士山の山麓で見上げる感動の世界とは全く異なる事です。デジタルデータの世界があたりまえになると、感情に鈍感な人間を育ててしまう恐れがあります。インターネットをめぐる問題は利用方法ではなく、悪いことをしてはいけない、困っている人がいたら助けるという、人間としてのあたりまえの事を失ってしまう事です。

社会の最小構成単位である「子どもと親」家族の大切さを再認識し、人間性、社会性を教育する事が大切だと私は信じています。

便利なものほど
正しく使うから
便利になるや
そのボタンひとつで
争いにも不幸にも
使え方
間違えたら
問題あるかん

(注釈)

*フィルタリング…インターネット上、有害と評価される言葉を含むホームページを表示しない機能のこと

暮らしの中で取り戻す男女共同参画社会

(NPO法人)
コミュニティ・サポートセンター神戸 理事長 中村 順子



縁あって、一昨年、丹波市で「男女共同参画」についての講演をする機会を得ました。講演会には、まちづくりに関係ある男女共同参画推進員さんや自治会長さんなど五十〜六十人の参加でした。男女共同参画の勉強会だけあって出席者は男女ほぼ半々。家庭で出来ること、地域で出来ることを話し合い、最後にグループ毎に発表していただきましたが、この場面が実に愉快活発、女の本音、男の本音が出され、素晴らしい具体的な行動まで提案されました。

家事はほとんど女性の仕事になっている、せめて感謝の言葉くらい言ってほしいなどが最も多く、地域の現状は、「自治会の役員は男性ばかり」、「女性の組長の免除制度はおかしい」、「女性が参加できない行事がある」、「夫がいなくなった時のことがとても心配」など制度上にも課題があることが明らかになりました。

この現状から一步を踏み出すには何が出来るのか、「妻の手助けをし家事を分担したい」、「男性の料理教室があれば調理も手伝える」、「互いの言い分をよく聞いて男女の役割にこだわらずやれるものがする」、「感謝の言葉を伝える」、「女性の免除制度をなくし役員をして積極的に発言する」、「自治会規約に女性役員枠をつくる」、「女性も規約などを知る努力をする」、「自治会の集まりに世帯主だけではなく夫婦で参加できれば」等々、本音の吐露の後だけに

どのアイデアも現実性に富み行動につながる提案で、すっかり感心し納得したところです。いずれも人権尊重を基本としています。

さて、この議論を生み出した背景である丹波市の実態は表のとおりであり、まちのことを決める場面に女性がいないに等しく、改善の余地があることは否めません。家や地域での男女共同参画のあり方が、公共分野での女性進出数に端的に表れているのです。

講演で思いが響きあう感触はとてもハッピーです。さらに進化して深い喜びとなるのは、具体化され実行ベースに移された時点です。丹波市のその後をジックリお聞きする機会はまだありませんが、すでにどこかの公民館で「男の料理教室」が開かれ、手づくり料理会に招待された家族らがとり囲んでにぎにぎしく賞味している風景、地区会議には妻が出席し、帰宅後には先ほどの会議について夫婦で語り合っている風景・・・など想像をたくましくしています。

わが国では二〇二〇年までに各分野における政策方針過程への女性の参加率を三十%とする目標を定めています。私たち市民は、家庭生活、地域社会の営みなど身近なところで、誰もがまちのことに関われる環境を創り出すことを、「男女共同参画」と紐解き、暮らしの中で小さな実行を積み重ねていくことを大切にしたいと思います。

丹波市の
各界にしめる女性の割合
(平成23年4月現在)

役 職	女性人数/全人数 割合
自治会長	2/298 0.7%
農業委員	2/46 4.3%
市役所管理職	4/72 5.6%
議 員	2/24 8.3%
各種審議会	110/584 18.8%

私ももてざる
他人にももてざる
関係ないんや
男の人の仕事とか
女の人の仕事とか
女の人仕事とか



人と人の絆の意味を問い直していくこと

公益社団法人シャンティ国際ボランティア会(SVA) 理事・事務局長

関 尚 士



シャンティ国際ボランティア会は、昨年十二月に創立三十年を迎えました。一九七〇年代後半、内戦状態に陥ったカンボジアの難民を救済しようと、難民キャンプに飛び込んでいったことが、私たちの活動の出発点となりました。私たちSVAの使命に、「人としての尊厳を守るための取り組み」が深く刻まれたのが、まさにこの時でありました。

災害救援活動への取り組みは、阪神淡路大震災がきっかけとなり、以後、国内外において被災者となった人々に対する支えを続けています。神戸では、高層住宅でエレベーターが止まり、六日間部屋から出ることもできず、ガス、電気、水道が止まった部屋で耐えしのんでいた肢体不自由の方や避難所に入ることすらできなかった同和地区の人々の存在を目のあたりにすることになりました。そうした中で私たちはオモニたちが互いに支え合い、ボランティアと共に識字教室をつくらせていただく機会をいただきました。

今も毎年のように各地を襲う豪雨水害の被災地では、耳が遠くなったお年寄りが避難指示の広報を聞き取れず、犠牲となってしまうケースが後を絶ちません。また、避難所にたどり着いても日々行政や支援機関から届けられてくる掲示板の情報から取り残される視覚障害をもった方々や周囲への遠慮から夜半トイレにいくこともできず、粗相をしてしまう人も必ずといっていいほど耳にするところなのです。



大きな災害に見舞われた時、地域で暮らす私たちは一様に被災者となります。その中でも一層困難な立場に置かれる人々が存在し、支援の手が後回しにされてしまう現実があります。これは、お年寄りや難病・障害を持った方々に限らず、幼子を抱え授乳やおむつを替えてあげることさえままならない夫婦であったり、津波や地震の恐ろしい記憶を上手く消化することができず、心の傷を深めていく子どもたち、プライバシーの無い中、長期間の避難生活で過度なストレス状態に陥る女性たちの存在も含め、様々です。

ひとりやなご
ひとりやなご
ひとりやなご
ひとりやなご
ひとりやなご
ひとりやなご
ひとりやなご
ひとりやなご
ひとりやなご
ひとりやなご

災害時、他者からの支えをより必要とする人々が救われるためには、行政によるインフラの整備や制度づくり、公的機関による初期対応がカギとなります。しかしながら、この度のような激甚災害に遭遇した際、その時を生き抜き、隣人の命を救い出し、支え合いながら復興の道のりを歩み続けていけるか否かは、その地域で暮らす人々の自助力、そして共助力にかかっています。阪神淡路大震災時、ガレキの中から救い出された七割を超す人々が隣人の力によるものであったように、いざという時には人と人の絆が何よりも問われることとなるでしょう。災害は、日常の中で覆い隠されている社会の歪を見事なまでに浮き彫りにします。介護や子育てに疲れ果ててしまう家庭、学ぶことや働くことに希望を見出せない若者たち、社会の中で確かな役割を与えられず老いを重ねていく人々の存在を受け止めて、なおしていく社会づくりは、公に期待することなく、私たち一人ひとりが、家族や地域の中で人と人の絆の意味を問いなおすことから始まるものだと思います。災害は大切なシグナルを常に私たちに送っています。そのまま忘れ去れば、単なる災いでしかなく、その学びを今の日常に活かすことができるとすれば、それは希望ともなるのです。

(注釈)

*オモニ：母、母親

*識字教室：文字の読み書きができるようになるための教室

*インフラ：インフラストラクチャーの略。社会経済発展の基礎となる道路、河川、交通、通信、公共施設など

民族文化が尊重される社会をめざして

大阪人権博物館 学芸員

文^{ムン}

公^{ゴン}

輝^{ファイ}



私の名前は漢字で「文公輝」と書き、「ムンゴンファイ」と発音します。しかし、少なからぬ人から「ぶんさん」ですか?と聞き返されることがあります。「文」という漢字を「ぶん」と読むのは、日本では当たり前のことかもしれません。しかし、その「当たり前」が、国や民族が違えば「当たり前」ではないのです。私にとって「文公輝」という名前の読み方は「ムンゴンファイ」、それが当たり前なのです。

二〇〇二年にサッカーのワールドカップが日韓で共同開催された頃、在日韓国人を対象にした大規模なアンケート調査が実施されました。それによると、民族名だけを使って生活している人は、十三%あまりしかいませんでした。ほとんどの在日韓国人、そしておそらくは朝鮮籍を持っている人も日常生活では通称名(日本名)だけを、あるいは民族名と通称名を使い分けながら生活しているわけです。

私が初めて自分の名前を「ムンゴンファイ」と読むのだと知ったのは、大学二年生の時でした。教えてくれたのは同じ大学に通う在日コリアンの先

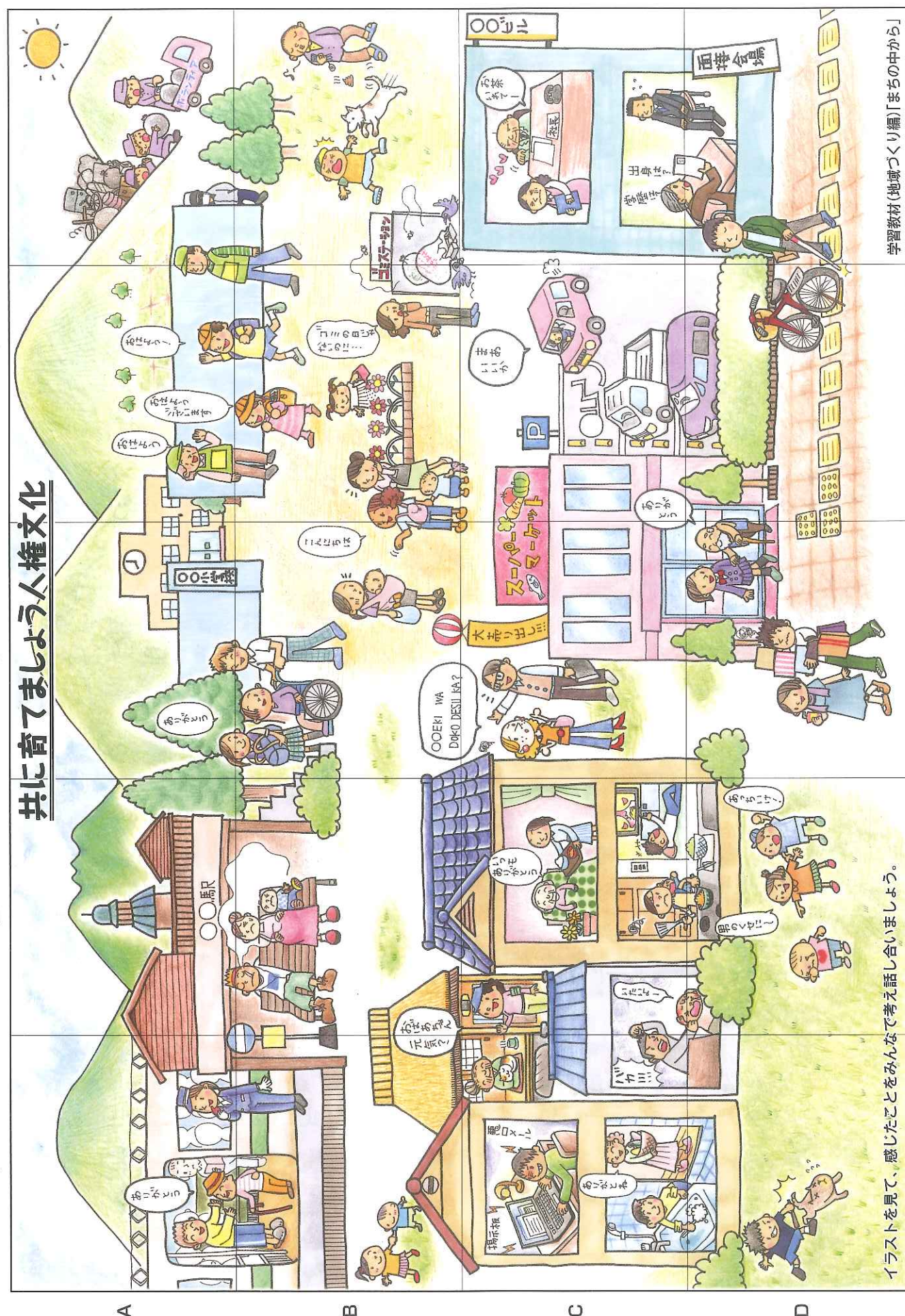
輩でした。それまで「文公輝」という民族名は知っていても「ぶんこうき」と読んでいた私は、「ムンゴンファイ」という発音に馴染めず、「変な名前」とさえ感じてしまっていた始末です。

しかし、大学の友人たちは、それからは私の名前を「ムンゴンファイ」と呼び続けました。他人から呼び続けられることで、「ムンゴンファイ」という名前を、私は自分の名前として違和感なく受け入れることができるようになっていったのです。

そんな私が、今では二人の子どもの親です。私の妻は日本人で、子どもたちは日本国籍も持っています。子どもたちは「ムン」の名前を当たり前のように名乗り、元気に学校に通っています。ある時、上の息子が筆箱にハンゲルで自分の名前を書いていき、それを見た友だちの間で、「格好いい」と話題になっていたようです。そのことを知った担任の先生が、韓国・朝鮮の文化を教えるに学校にきてほしいと私に電話をくれ、授業に出向いたのが一昨年のことでした。これからも子どもたちが、学校での学びを通じて、多文化共生の価値観について素晴らしい気づきの機会を得ることができるよう、学校を支える親であり、地域の一員でありたいと思います。

「多文化共生」という言葉は、カタク感じるかもしれませんが。でも、みなさんのクラス、学校、職場、地域のなかにも、きっと何かがあるはずですよ。そんな、身近なつながりのなかから考えると、「多文化共生」という言葉の意味するところは、「楽しい」「きれい」「美味しい」などなど、あなたの人生をより明るくしてくれるものだということに気づいていただけるのではないのでしょうか。





住民人権学習会に参加しましょう！

各自治公民館では「人権文化の根づくまちづくり」の創造に向け、人権の今日的課題や地域で抱える課題解決のため、市民一人ひとりが、暮らしのなかで人権を尊重した生き方を学び、豊かな人間関係の構築に取り組む「住民人権学習会」を実施しています。

より効果的な学習会にするためには、様々な価値観や考え方の参加者と意見交換することが大切です。また、皆さんの積極的な参加が地域を良くしていくことにつながります。

あなたの住む自治会で開催される学習会に、是非参加しましょう。



学習教材①(地域づくり編) 「まちの中から」

【教材のねらい】

人権は、概念としてだけでなく、具体性をもってとらえていくことが大切です。身近な出来事を「自分のこと」として人権の視点からとらえ、意識して行動していくことにつながります。

左のページのイラスト教材は、身近な人権課題に気づき、そのあとの対話ができるように作成したものです。この教材から見えてきた課題を材料に解決に向けた取り組みについて考えましょう。

左のページのイラストを見て、みんなで話し合ってみましょう

【学習会での進め方】（例）

- ①学習のねらいと流れを確認します。
- ②2人1組になり、教材から気づいたことを話し合います。
- ③4人1組になり、2人組の対話を紹介しながら、なぜそのことに気づいたのか、どう解決していけばいいのかを話し合います。
- ④出し合った気づきや対話の中から、この地域にとって切実な問題を3つ選び、発表者も決めます。
- ⑤3つの問題についての各グループの意見を全体で発表します。
- ⑥学習支援者は学習のまとめや、ふりかえりをします。

②2人1組になり、教材から気づいたことを話し合います。

③ 4人1組になり、2人組の対話を紹介し合いながら、なぜそのことに気づいたのか、どう解決していけばいいのかを話し合います。

④出し合った気づきや対話の中から、この地域にとって切実な問題を3つ選び、発表者も決めます。

⑤ 3つの問題についての各グループの意見を全体で発表します。

⑥学習支援者は学習のまとめや、ふりかえりをします。

【話し合いの注意点】

- ・ 時間を守り、なごやかな雰囲気、本音で話をしましょう。
- ・ 様々な考え、価値観をもった人の集まりであることを念頭において、特定の考え方を強制しないようにしましょう。
- ・ 考えの異なる発言があっても、すぐには否定せず、正しい理解や認識が得られるような説明や問いかけをしていきましょう。
- ・ 学習会の場で出された意見は、外へ持ち出さないようにしましょう。

- ・ 様々な考え、価値観をもった人の集まりであることを念頭において、特定の考え方を強制しないようにしましょう。

- ・考えの異なる発言があっても、すぐには否定せず、正しい理解や認識が得られるような説明や問いかけをしていきましょう。

- ・学習会の場で出された意見は、外へ持ち出さないようにしましょう。

*イラスト教材の拡大版が必要な場合や住民人権学習の実施にあたっての相談、ビデオ教材等の借用については、各支所へお問い合わせください。

シート 1

マイホームを購入しようと考えている A さんが友人の B さんに相談した会話です。

A さん：「ちょっと相談があるんやけど、いいかな？」

B さん：「どうしたんや？」

A さん：「実は、土地を買ってマイホームを建てようと考えているんだ。君なら住む場所を選ぶときにどんなことを考える？」

B さん：「お店や病院、駅、学校などが近くにあれば便利だと思うね。ほかには・・・。」
えっと・・・。あれかな・・・。」

A さん：「あれってなんだい？」

B さん：「いや別にたいした意味は・・・。ちょっと気になることがあって・・・。」

A さん：「何が気になるんだい？」

B さん：「その土地が同和地区かどうかを調べた方がいいんじゃないかな。僕なら同和地区には住みたくないけど・・・。」

A さん：「どうして同和地区に住みたくないんだい？」

B さん：「そこに住んでいるだけで周りから部落の人と間違えられるからね。部落差別なんて受けたくないから同和地区とは関わりたくないよ。」

A さん：「でも、その土地が同和地区かどうかを調べることで、やっぱり良くないことじゃないかなあ。」

B さん：「確かにその通りなんだけど、調べるだけなら差別にならないね。それに世間の目は気になるものだよ。」

A さん：「うーん・・・。そうかなあ・・・。」



学習教材②(同和問題編)「マイホームの購入」

【教材のねらい】

人権についての様々な取り組みによって人権尊重の意識が高まっていますが、未だに私たちの身の周りでは人権を侵害する差別が起こっています。

すべての人が幸せに生きていくためには、一人ひとりが人権を尊重し、「差別をしない・させない」ことが大切です。

この教材は、学習をとおして同和問題における土地差別をテーマに忌避意識や偏見について考え、一人ひとりの正しい理解と行動によって差別のない明るい社会を築いていくために作成しました。

ワークシートを利用して、みんなで話し合ってみましょう

【学習会での進め方】(例)

- ①学習会のねらいと流れを確認します。
- ②配布されたシート1の会話を、参加者がAさん・Bさんになって演じてもらいます。
- ③会話から気づいたり、感じたりしたことや問題点を考え、シート2に記入します。
- ④参加者数に応じてグループ分けをします。
- ⑤司会と発表の役割を決めます。
- ⑥それぞれが気づいたことや感じたこと、どう解決していけばよいのかを話し合います。
- ⑦出された意見などをグループでまとめます。
- ⑧各グループの意見を全体で発表します。
- ⑨学習支援者は学習のまとめや、ふりかえりをします。

【話し合いの注意点】

- ・時間を守り、なごやかな雰囲気、本音で話をしましょう。
- ・様々な考え、価値観をもった人の集まりであることを念頭において、特定の考え方を強制しないようにしましょう。
- ・考えの異なる発言があっても、すぐには否定せず、正しい理解や認識が得られるような説明や問いかけをしていきましょう。
- ・学習会の場で出された意見は、外へ持ち出さないようにしましょう。



【解説・参考】

同和問題は、日本社会の歴史的過程で形づくられた身分差別によって、国民の一部の人々が長い間、経済的、社会的、文化的に低い状態を強いられ、今なお日常生活の上でいろいろな差別を受けるなどの日本固有の人権問題です。

これまで様々な取り組みによって人権尊重の理念や正しい理解が進んでいますが、一方で未だに結婚や居住などにおいて差別が起こっています。

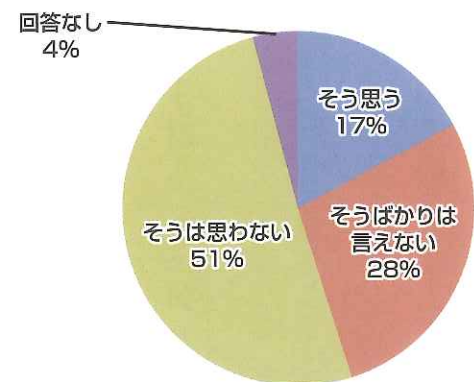
宅地建物の取引きにおいて、同和地区かどうかを問い合わせたり、避けようとしたりする人がいます。この背景には、「同和地区には関わりたくない」「自分は差別されたくない」といった忌避意識が存在していると考えられます。

差別はいけないとわかっている、いざ自分自身が関わることになるのと正しい判断ができなくなり、その結果、差別が起こっています。

シート1の会話の中で、Bさんは最後に「・・・調べるだけなら差別にならないね・・・」と話していますが、その土地のことを調べる行為は、この忌避意識を肯定し、部落差別を温存することにもつながります。「調べる」ことが人を悲しませたり、苦しめたりすることになるのです。

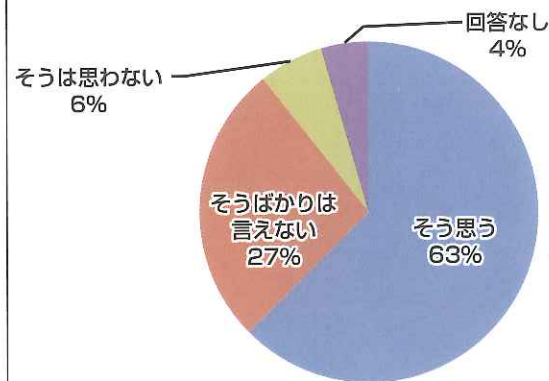
一人ひとりが忌避意識や偏見、世間体に惑わされることなく正しい知識と理解を深め、互いの人権が尊重された差別のない社会を築きましょう。

家を買うにあたって、その家が被差別地域にあるかどうかを、自治体に電話でたずねても差別行為にはあたらない



平成17年に実施した丹波市人権問題市民意識調査において、「家を買うにあたって、その家が被差別地域にあるかどうかを自治体に電話でたずねても差別行為にはあたらない」の問いに対して、「そうは思わない」(たずねることは差別にあたる、という回答)は5割にとどまっています。「そうばかりは言えない」が約3割、「そう思う」も2割近くあり、部落差別についての意識を聞いた他の項目よりも差別を容認する立場の回答が多くありました。

被差別地域の土地が、周辺地域の地価より著しく低く、そのことにより特別な不利益を生じるのは部落差別である



「被差別地域の土地が、周辺地域の地価より著しく低く、そのことにより特別な不利益を生じるのは部落差別である」については、「そう思う」が63%にとどまり、「そうばかりは言えない」も27%あり、「そうは思わない」は6%となっています。

シート2

①シート1のAさんとBさんの会話から、気づいたり、感じたことを記入して下さい

②2人の会話のどこに問題があるのでしょうか？

③どのような解決方法があるのか、また、私たちはどうすればいいのでしょうか？

④各グループで話し合ったことをまとめましょう

愛子さんふたたび

柏原中学校二年 八木将輝



八月十二日・またこの日がきた。日本航空ジャンボ機が、群馬県御巢鷹山おすたかやまに墜落して二十七年がたった。二年前、その御巢鷹山に僕は姉と母と一緒に登った。案内してくださったのは、この事故で娘の愛子さんを亡くされた田中さん。その体験をつづった姉の人権作文は、当時、新聞に取り上げられ、多くの反響をよんだ。兵庫県内だけではなく、他府県からも作文についての手紙や電話による問い合わせがきた。見知らぬ人とのたくさんの出会いやつながり・これも愛子さんが残してくださったものと母は話した。田中さんも人の心の中に「こうして愛子は生きている」と喜んでくださった。

そして、さらにこの夏、愛子さんのことが劇になった。「今、光っていたい娘の遺のこしてくれたもの」という劇だ。三木市が「人権尊重のまちづくり条例施行十年」を迎えて、新たな人権尊重の機運を盛り上げようと計画されたものだ。その練習風景を田中さんと見に行くことができた。

公演一週間前の熱の入った本番さながらの練習に僕はしぜんに引き込まれた。小学生からおじいさんおばあさんまで、たくさんの役者さんたちが精一杯、それぞれの役を演じておられる。ときには笑いをさそい、ときには涙がこぼれる演技に、僕は心をうたれていた。

そんな中、驚いたことがある。練習の合間に田中さんのところにやってくる役者さんが何人かおられた。「田中先生！覚えてる？私よ。〇〇！先生の教え子の！」先生の名前を見て、劇に応募したんよ！劇に出なくてはって思ったんよ。」・

口々にそう言って懐かしそうに話されていた。この劇はプロの役者さんたちが作ったものではなく、市民劇団として、市民オーディションを行い、一年がかりで作られたものと分かった。田中さんは今年八十八歳。教え子といっても、もう年配の方ばかりだ。三十年、四十年たっても、田中さんの名前に突き動かされるのはなぜだろう。母は田中さんの「同和教育」が生きているからこそ・と言った。僕は時を越えたそのつながりに田中さんの人としてのすごさを感じた。

この舞台に立たれている人、みんなが生き生きとしていて、一般の劇とは違う緊張感や役者さんの「伝えよう」という気持ちに僕にも伝わってきた。その中で僕の心に強く残ったシーン。それは田中さんに送られてきた手紙が読みあげられるシーンだ。「日航機墜落の原因がやっとわかった。穢けがれを持った愛子が乗っていたからだ。坂本九ちゃんを死においやったのはお前の娘だ。」という内容の差別手紙だ。それに対して、「どうするんですか？」という問いかけに、田中さんはこう言った。「何もしません。」僕はその言葉に耳を疑った。僕なら許せない。手紙の送り主を憎むだろう。広げられた心の傷を何かに訴えて、相手が誰であるかつきとめてやりたい。だがそんな僕の思いと、田中さんの言葉は違っていた。「この人自身に罪はありません。差別の歴史をきちんと教えられなかったのです。この人はゆがんだ偏見だけを植えつけられたいわば犠牲者なのです。」と、相手を思いやる発言ともとれる。しかし、その後に続く言葉は「差別は今も続いています。」という重いものだった。差別を残している社会に対して、静かで、強い抗議の言葉だったのかもしれない。

二十七年前に亡くなった愛子さん。でも愛子さんが残されたものは、劇になり多くの人に感動を与えた。テレビを見ても部落差別についてとりあげている番組はほとんどない。大切なことなのに、語られることが少ない。だからこそ、この劇がこうして市民レベルで上演された意義は大きいと思う。

このような取り組みが僕の住む町にも他の地域にも広がっていくことを願う。その時、僕もその担い手になれるよう、これからも学び続けたい。

平成二十三年 人権啓発ポスター 優秀・優良作品



優秀賞 市島中三年 荒木 聡子



優秀賞 山南中一年 待場 由希



優秀賞 南小 五年 いし つか 楓 帆

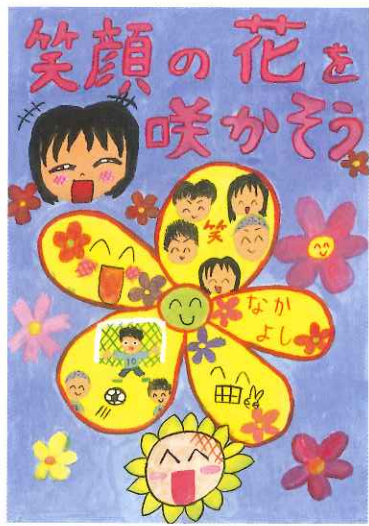


優良賞 船城小 六年 みなもと 源 とも 智 紀

優秀賞 山南中二年 梅田 力斗



優秀賞 上久下小 六年 矢野 沙由里



優良賞 芦田小 五年 北中 希



優良賞 柏原中三年 本庄 真由



優良賞 山南中二年 森本 愛美



優良賞 氷上中一年 東良 愛生



平成二十三年 人権標語 優秀・優良作品

【優秀賞】

(五年生の部)

見つけよう だれでももっている よいところ

鴨庄小学校 阪谷 颯太

(六年生の部)

いじめてる あなたが一番弱い人

鴨庄小学校 吉見 海斗

(中学生の部)

冗談は言い訳 それでも人は傷つきます

山南中学校一年 藤本 理子

(一般の部)

笑顔で交わす 挨拶で あなたの心をノックする

福田 ひとみ

【優良賞】

(五年生の部)

ありがとう いってもしなくても

船城小学校 いい言葉 田中 千怜

(六年生の部)

考えよう 相手の心と 自分の言葉

吉見小学校 古本 舞香

(中学生の部)

いじめの芽 気づいた君が 摘みとろう

和田中学校二年 足立 涼夏

(一般の部)

広めよう 地域の人権 まず家庭

白井 絹代